

手術用

サージカルソフトホルダー

Surgical Soft Holder

国立がん研究センター東病院 様
日本ケミカル工業(株) 様
共同開発品

側臥位用

仰臥位用



ISO13485 取得済

株式会社三洋 東京メインオフィス
大阪オフィス・八尾工場にて認証取得
随任式体位固定マットの設計及び製造
において認証取得

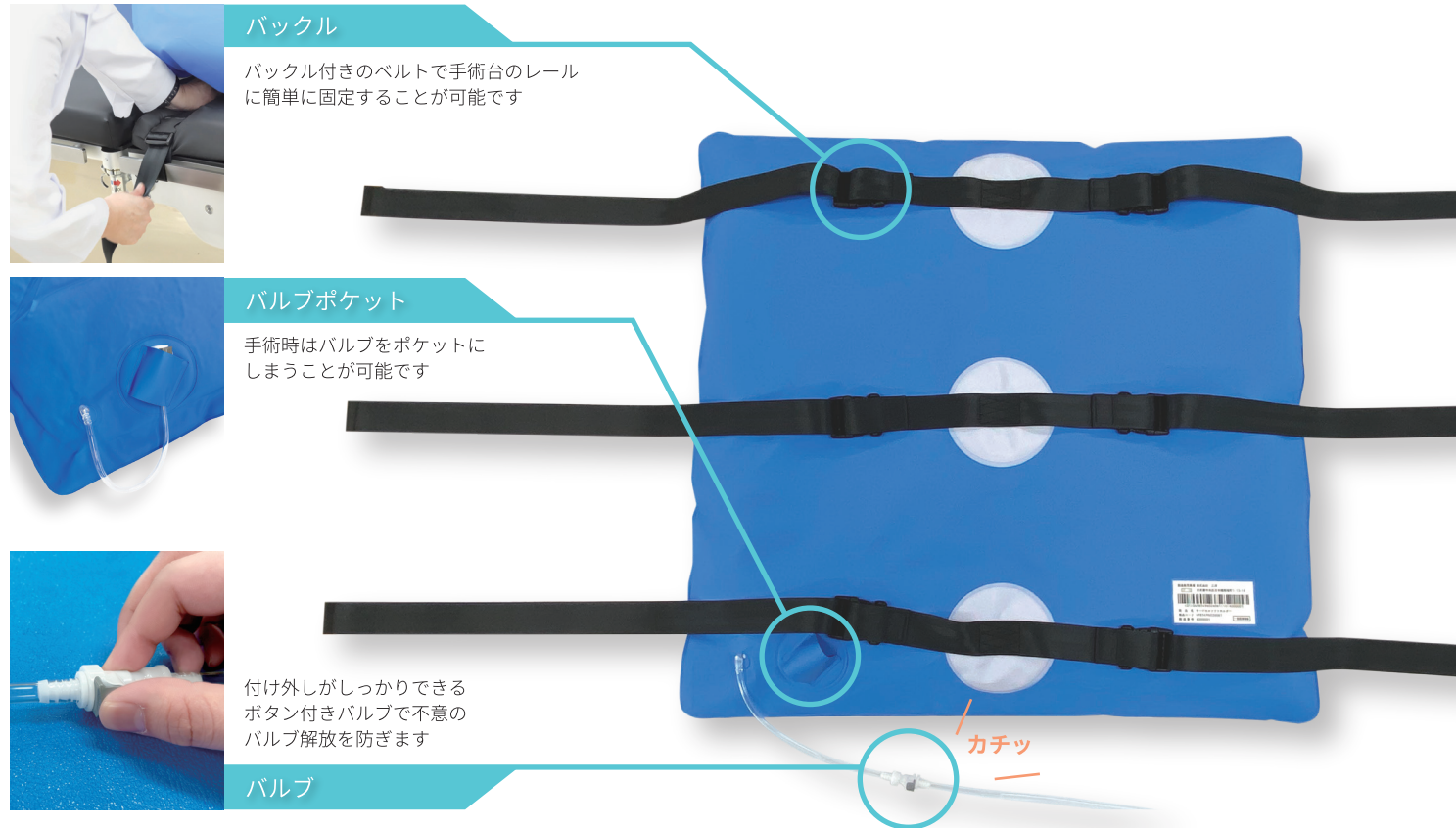
※国立がん研究センター東病院様
模擬手術室にて撮影

手術中の 体圧負担の軽減 を

目的に開発した 体位固定具 です

※本製品は国立がん研究センター東病院様との共同研究を基に(株)三洋と日本ケミカル工業(株)が開発・製造・販売をするものです。

本体形状



バックル

バックル付きのベルトで手術台のレールに簡単に固定することが可能です

バルブポケット

手術時はバルブをポケットにしまうことが可能です

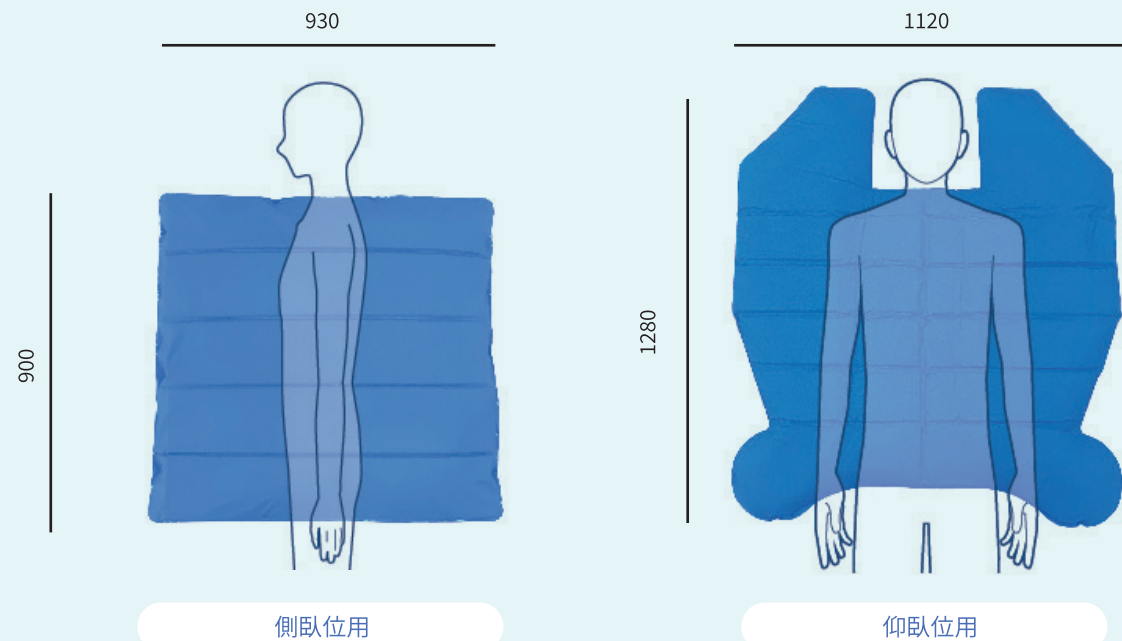
付け外しがしっかりできるボタン付きバルブで不意のバルブ解放を防ぎます

バルブ

カチッ

※体位固定具（仰臥位用）も同様の機能があります。

本体サイズ



側臥位用

仰臥位用

【原材料】表皮・チューブ(エーテル径TPU)/バルブ・バックル(ポリアセタール)/ベルト・ビーズ内袋(ポリエステル)/ベルト座生地(ナイロン/TPU)

従来品の問題点

問題 1 ビーズの偏り

シートに直接ビーズを充填する従来の方法では、中でビーズが偏ってしまうため、場所により固定力にばらつきが出てしまう場合があります。そのため、使用前に偏ったビーズを均等にする作業が必要です。

【従来マットの断面】



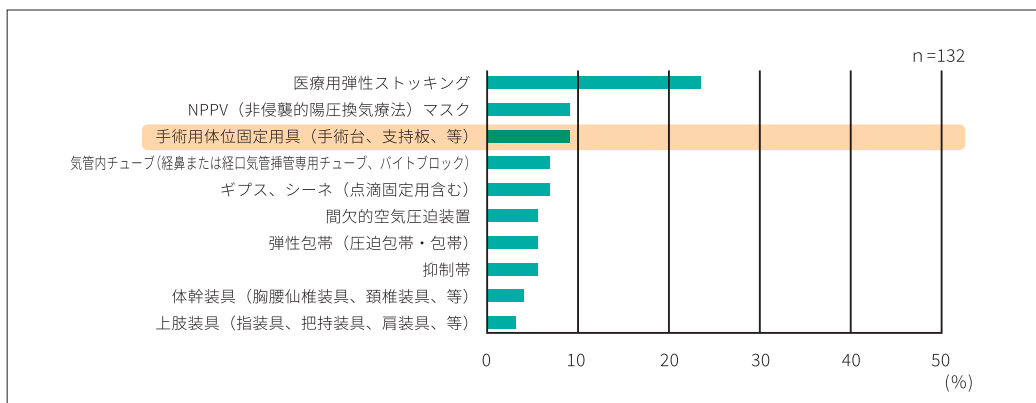
【ビーズの偏り例】



問題 2 体圧負担

手術用体位固定用具は大学病院における創傷発生に関与した医療関連機器のうち 9.1%を占めています。

大学病院

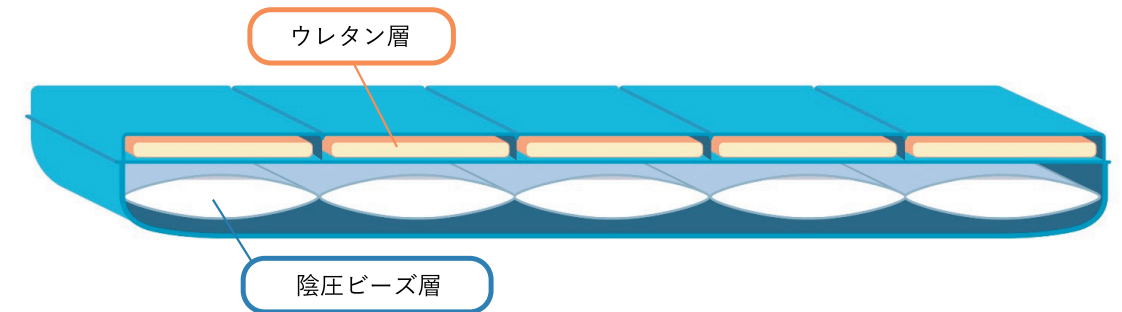


(川上重彦, 一般社団法人日本褥瘡学会編集『ベストプラクティス 医療関連機器圧迫創傷の予防と管理』, 照林社, 2016)

そのため現状使用の際は、ずれまたは圧迫の減少を目的として、機器と患者との間にクッション等をあてるなどの工夫が求められています。

三洋の新しい体位固定具

【マットの断面図】

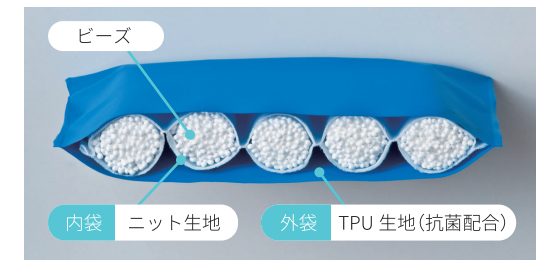


1 重袋構造

内外袋シートにビーズを挿入した内袋クッションを封入する『重袋構造』を採用することで、ビーズの流動を解消します。

内袋は偏り・底突きを防ぐため、袋状のニット生地にビーズを充填したクッションにしております。それにより、従事者の ビーズを均等にする作業が不要となりました。

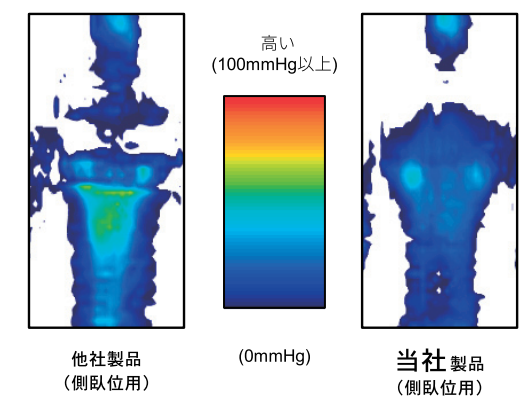
【内袋の構造】



2 発泡ウレタン層

重袋構造の陰圧ビーズ層に加え、上面に体圧分散を目的とした ウレタン層 を設けることにより、身体を優しく包みます。

【体圧分布の測定比較】



アキレス株式会社 調べ
被験者：30代男性 体重80kg ※データには個人差があります。